



PRESS RELEASE

報道各社 御中

令和 3 年 6 月 15 日
岡山大学
南山大学
東北大学
国立歴史民俗博物館

弥生時代の争いの原因を検証：人口増加が重要な要因であることを明らかに

◆発表のポイント

- ・弥生時代北部九州に注目し、墓の数から人口、骨に残された傷から争いの頻度を推定しました。
- ・推定された人口と争いの頻度の間に正の相関関係が見られました。
- ・他の要因との関係をさらに探ることで、「人はなぜ争うのか」という人類普遍の問いに迫ることが期待されます。

南山大学人類学研究所の中川朋美博士研究員・中尾央准教授と岡山大学文明動態学研究所の松本直子教授ら、東北大学の田村光平助教、国立歴史民俗博物館の松木武彦教授らの研究チームは、弥生時代中期（紀元前 350 年～紀元 30 年）に北部九州で起こった争いの原因を検討し、人口圧（注 1）が一つの重要な要因であることを明らかにしました。

これらの研究成果は 6 月 5 日、米国の考古学専門誌「*Journal of Archaeological Science*」の Research Article として掲載されました。

本研究では、この時期の北部九州で広く見られる甕棺（かめかん）と呼ばれる墓の数から推定された人口圧と、骨に残された傷から推定された争いの頻度の関係を、統計的に考察しました。こうした定量的な考察は、今後の考古学のあり方を大きく変えていこうと考えられます。また、さまざまな考古学的証拠を量的に表現・検討することで、日本だけでなく、海外のデータとの国際的な比較も進んでいくでしょう。

「人はなぜ争うのか」という問いは、時期や場所を問わず、まさに人類普遍のものです。今後、人口圧以外のさまざまな要因も考慮することで、この普遍的な問いへさらに迫ることが期待されます。

■発表内容

<現状>

ヒトが争うようになった原因は、これまでさまざまなものが候補として考えられており、本研究で考察した人口圧もその一つです。傷が残された骨が多く出土することから、日本では弥生時代中期の北部九州において戦争のような激しい争いが行われていたと推測されていますが、この原因もおそらくは人口増加だろうと言われてきました。ただ、人口増加と争いの頻度の増加との関係について、詳細なデータに基づいて定量的に検証した研究はこれまで行われていませんでした。



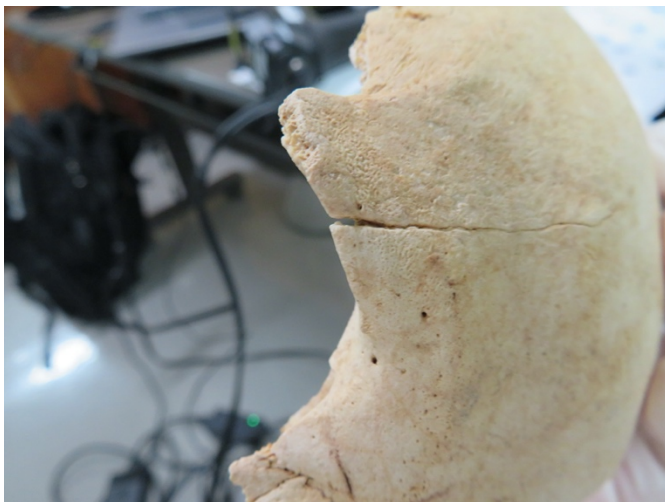
PRESS RELEASE

<研究成果の内容>

南山大学の中川朋美博士研究員・中尾央准教授、岡山大学の松本直子教授・山口雄治助教、東北大学の田村光平助教、国立歴史民俗博物館の松木武彦教授らの研究チームは、まず弥生時代北部九州で広く出土する甕棺という墓に注目しました。日本列島では通常土中に埋葬された人骨は腐朽してしまって長く残りませんが、大型の埋葬専用の土器を二つ合わせて密閉する甕棺に埋葬する風習が発達した弥生時代の北部九州では、多くの人骨が良好な状態で残されています。また、人骨が残らなくても甕棺自体は残ります。そこで、この甕棺の数からまずは当時の人口を推定しました。

次に、傷が残された骨の数から、争いの頻度を推定しました。これも同時期の北部九州に集中してみられるもので、当時の北部九州で激しい争いが起きていた可能性が示唆されます。

最後に、両者の関係を統計的に考察し、人口圧が高くなれば争いの頻度が増加するという傾向が見られました。これらの結果から、人口圧が争いを増加させる要因であったと考えられます。



左：右眼窩上部に付けられた斬創。隈・西小田遺跡（弥生時代中期後半）出土。

右：福岡県小郡市ハサコの宮遺跡出土甕棺（弥生時代中期前半）の三次元モデル。

<社会的な意義>

戦争は今もどこかで行われています。そして、おそらくヒトは、大昔から争ってきたのだろうと考えられています。過去の争いの原因がわかれば現在の戦争をすぐに止めることができる、というわけではありません。しかし、ヒトがなぜ争ってきたか、その要因を解明していくことで、ヒトの本性を明らかにし、争いを減らすためにはどのような社会・環境を作っていけばよいかを考える足掛かりになると考えられます。



PRESS RELEASE

■論文情報

論文名：Population pressure and prehistoric violence in the Yayoi period of Japan

邦題名：弥生時代における人口圧と争い

掲載紙：Journal of Archaeological Science

著者：Tomomi Nakagawa, Kohei Tamura, Yuji Yamaguchi, Naoko Matsumoto, Takehiko Matsugi, and Hisashi Nakao

DOI：https://doi.org/10.1016/j.jas.2021.105420

URL：ジャーナル website https://www.journals.elsevier.com/journal-of-archaeological-science

「出ユーラシアの統合的人類史学」ウェブサイト http://out-of-eurasia.jp/

■研究資金

本研究は、文部科学省科学研究費助成事業新学術領域研究（研究領域提案型）「出ユーラシアの統合的人類史学 - 文明創出メカニズムの解明 -」（JP19H05733, JP19H05734, JP19H05738）の支援を受けて実施しました。

■語句解説

注1：人口圧

生活を支える経済活動に対して人口が過剰となることで人々が感じるストレス

<お問い合わせ>

南山大学人類学研究所 博士研究員 中川 朋美・准教授 中尾 央

（メール）tnkgw07@nanzan-u.ac.jp/hnakao@nanzan-u.ac.jp

岡山大学文明動態学研究所 教授 松本 直子

（電話）086-251-7519

（メール）naoko_m@cc.okayama-u.ac.jp

※恐れ入りますが、メールでのお問い合わせをお願いします。

東北大学学際科学フロンティア研究所 助教 田村 光平

（メール）kohei.tamura@tohoku.ac.jp

国立歴史民俗博物館 教授 松木 武彦

（電話）043-486-4259

（メール）matsugi@rekihaku.ac.jp

